

日吉台地下壕保存の会

会 報

第16号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

〒223

横浜市港北区下田町3-15-27

電話 045-562-1282 (寺田貞治方)



連合艦隊司令部地下壕の作戦室の見学者

目 次	頁
○第4回総会を迎えるに 当たって	1
○お知らせ 第4回総会の案内 総会当日の映画の案内	2
○第10回幹事会報告	2
○第11回幹事会報告	4
○ある通信隊員の回想	5
○地下壕見学会感想文	5
○お願い	8
○編集後記	8

第四回総会を 迎えるに当たって

事務局長 寺田貞治

保存の会が発足してから丸三年がたちました。この間会員の数は順調に伸び、日吉台地下壕の存在や保存運動について、かなり世間に知られてきました。しかし保存の見通しは一憂一喜ですが、少しづつ着実に前進していることは確かであろうと思います。

昨年从今年にかけて、強制連行や従軍慰安婦の問題が大きく取り上げられました。アジアの国々から、これらの人々の戦後補償の要求が日本に対してなされています。ドイツやイタリアは既に実施しており、アメリカも日系人の強制収容に対して補償しています。日本だけがほかにわけてすまることが出来るでしょうか。

世界の国々と仲良くやっけて行くためには、近現代史を正しく学び、アジアに対してやるべきことは、きちんとやっておくことが大切です。日吉台地下壕は生きた現代史を学習することが出来ます。早急な整備・保存が望まれます。

総会には、一人でも多くの会員の方々に来ていただき、保存運動の前進のために話し合い、総会を成功させたいと思います。皆様お誘い合わせの上、多数の方々のご参加をお願いします。

氏に、機会があったら講演をして頂けるようお願いしたい。

六、二月八日：ふれあい館の「人権尊重学級」の講演の時、講師のNHK国際局チーフディレクター田辺寿男氏に、機会があったら講演をして頂けるようお願いした。

七、二月九日：聞き取り調査をした。

M氏の話：大聖院裏の地下壕は殆ど朝鮮人労働者が掘っていた。海軍が民間の土建業の監督を使って掘らせていた。朝鮮人は軍の方から割当（一組三〇人ぐらい）で送ってきたようだ。飯場は箕輪の方にあった。地下壕は主につるはしで掘った。固いところはハツバをかけていた。出た土はトロッコで田圃に捨てた。日本人労働者もいたが、労働のきつところは朝鮮人労働者がやった。金蔵寺の西にあるE氏の家は、元朝鮮人が借

りていて、たくさん朝鮮人労働者がいた。ここにいた朝鮮人は殆ど日本語を話した。朝鮮人労働者は、戦後殆ど朝鮮に帰ったが、残った人もいた。木下、林などの日本名を名乗っていた人が残っていたが、二人とも亡くなった。その他、朝鮮人は新丸子や菊名にずいぶん住んでいた。

W氏の話：W氏は、当時中学三年生で、潜水艦で石油を運ぶために、羽二重とゴムを幾重にも重ねて石油を入れる大きな袋を造っていた。一九四一年ごろ南日吉に大塚工場を造るので、田圃の埋め立てに朝鮮の人がきていた。近くのI氏の家は、当時朝鮮人のかしら（日本名で村田という人）が借りていて、三〇人ほどの朝鮮人が入っていた。年は二〇〜四〇才ぐらいであった。飯場は、A氏の現在市民農園になっている所にあった。A氏の（いま公園

になっている）所から土を埋立地までトロッコで運んでいた。

戦時中、日吉台小学校に朝鮮人の子供がきていた。渡辺氏は、彼らに朝鮮語の教科書を見せてもらったことがあるという。

日吉本町の赤門坂を下ったところにも朝鮮人の飯場があり、少なくとも三〇人ぐらいの人がいた。ここは地元のI氏が、取り仕切っていた。ここにいた朝鮮人は、殆ど日本語が話せず、戦後すぐ朝鮮に帰って行った人が多かった。在日ではなく朝鮮から連れてこられた人のようだった。独身の二〇才前後の若い人が多かった。ときどき、お腹がすいているからといってトウモロコシを貰いにきたという。みんな礼儀正しかった。当時日本人は黙って畑からもって行く人が多かった。W氏の防空壕は、元住吉に住んでいた朝鮮人に掘っ

てもらった。当時、元住吉や網島には朝鮮人がかなり住んでいた。多くの人は朝鮮に引き上げて行った。南の人が多かった。

八、二月一日：「神奈川と朝鮮との関係史」調査委員会。委員会には県の国際交流課の方も参加されている。地下壕保存についての県の窓口は、国際交流課になっており、委員会に出席されている交流課の方に会報第一五号を渡し、その中に書かれている保存についての要望書の案を説明した。

九、二月一日：国会議員団の地下壕視察について電話で打ち合せをした。詳しい日程はこれから。

幹事より

保存の目的は、朝鮮人問題を主にするのではなく、あくまでも日吉の地下壕から見える戦争の実相を知ってもらい、戦争と平和を考える史跡として残すことである。

議事

- 一、地下壕見学会について
三月一日または三月八日
一時半：地下壕徹底調査
- 二、保存運動の進め方

1 国会議員団の地下壕視察について

2 県知事と市長への陳情
近いうちに県知事に要
請書を持っていく。

- 三、調査活動について

慶應関係、朝鮮人関係、地
元住民関係、旧海軍関係等
地図をつくり区域を決めて
調査をする。

- 四、イベント開催について

小林直樹氏、NHKのディ
レクター、獅子ヶ谷の地下
壕の金子氏などの講演。

- 五、パンフレットの発行

総会までに発行したい。

- 六、会報第一六号の発行

三月～四月に発行予定。

- 七、四四回総会について

四月一八日(土)二時

- 八、その他

戦時中の化学関係の会社の
地下壕が獅子ヶ谷にあり、

最近地下壕から化学物質が
流れだして問題になっ
ている。金子氏は、その近
くの方である。

第十一回松竹市会△△知事生口

日時 三月一日

場所 藤山記念館中会議室

事務局長より

一、会員数 四七九名

二、二月二〇日：神奈川県

「朝鮮史」調査 大磯と二

宮の町役場

三、二月二二日：元連合艦隊

司令部の通信隊の戦友会

「日吉会」の布川氏に会う。

日吉会(二〇数名)で一〇

月三日(土)に地下壕を見

学したいという要望あり。

四、二月二四日：神奈川県

「朝鮮史」調査 伊勢原市

役所

五、二月二二日：保福禪寺住

職の高橋哲英氏、元陸軍砲

兵隊で川崎市久末の高射砲

陣地にいた片野芳雄氏から

の聞き取り。

六、二月二三日：地下壕出入

口近くの元港北区役所職員

の原政春氏、元朝鮮人の方

で帰化されたN氏、I商店

のおばさん(夫婦とも元朝

鮮人)、戦前からの土建業

の花村建設の一族(出は朝

鮮人の方で帰化されている)

の方からの聞き取り。

七、二月二五日：矢上橋近く

の吉本正一氏、渡辺威氏か

らの聞き取り。

八、二月二七日：地下壕出入

口近くの加藤豊氏からの聞

き取り。

九、二月八日：幹事による地

下壕徹底調査。東急ケーブ

ルTVが取材。

一〇、その他：九〇・九一年

度の会費未納者に、九三年

度分も含めて会費納入の手

紙を振り込み用紙を同封し

て郵送した。今だに納入者

無し。

議事

一、三月一四日(日)の日吉

台小学校の地下壕見学会

30人参加の予定

二、保存運動の進め方

1 国会議員団の地下壕視察

三月二四日に打ち合わせ

2 県や市当局への働きかけ

について

三月中に知事秘書の蔵氏

を通して要請したい。

三、調査活動について

1 慶應関係、朝鮮人関係、

地元住民関係、海軍関係

2 大倉山の地下壕の調査に

ついては金子氏に連絡し

てから決める。

3 箕輪・蟹ヶ谷の地下壕の

徹底調査については総会

後に行う。

四、第四回総会について

日程：四月一八日

午後二時～五時

イベント：

映画「戦争と青春」

の上映

役員候補：幹事を増やす。

場所：藤山記念館大会議室

五、パンフレットの発行

三月下旬～四月上旬予定

六、会報第一六号の発行

について

総会の案内、幹事会報告、
地下壕見学感想文、

九二年度会費納入の案内

七、運営委員会：三月二六日

ある通信隊員の
の回想

元連合艦隊司令部
通信隊員 S氏

昭和二〇年二月、防通校を卒業して、日吉に到着。テニスコートか弓道場か、古い木造の建物に二・三日、何もしないで泊まっていた。その後大きな家で、中通路に両側で五・六〇人位の兵隊（兵曹長二名、ほか兵曹・兵）と一緒に住んでいた。

毎日壕の中の通信室に勤務に通った。後で、壕の中で満ちるベットの生活となり、通信室もとなりで便利だった。通信室を出ると右に医務室があり、その奥に会議室

があつて、上官の出入りが多く大変だった。

空襲のたびに医務室に負傷者が担架で入り、うるさかった。何人かはわからないが、毎日毎日忙しい様子でした。

ある日、医務室の窓から覗いてみると、片足をももから切断するところだった。軍医が、ウイスキーを一杯ひっかけて、ベットにしばった体を生のまま鋸で切る。その時、兵隊は殺してくれと吠え叫ぶ。これが明日は俺の番かと、人ごとでなく身にしみた。

通信室と並んで暗号室があり、電報はすぐ出来上がる。電報を持って階段を駆け上がると、地上には大きな建物があり全部海軍が使っていた。慶應大学の寄宿舎だ。その横に金網を張り、七面鳥を飼って、召集兵にあつかわされていた。七面鳥の好きな司令長官だった。その豊田副武連合艦隊司令長官に、七面鳥の前で電報を渡した事があつた。

壕の出入口の外にはタバコ

ボン（かまぼこ兵舎）があつた。そこには勤務や会議を終えた兵隊が集まって、いろいろと会話がはずんだ一番の気休めの場所だった。

ある日、タバコボンに会議を終えられた三笠宮殿下がこられて、いろいろと兵隊に来る前に古里で何をしていたか聞かれて、それに答えたことが悪いと後でひどい制裁を受けたことがある。直接殿下に話してはならないことになっていた。殿下は陸軍代表で、陸海軍参謀会議に出席していた。

日吉は、横浜、川崎、東京と、まわりがどんどん焼けて、工場の油タンクが爆発して燃える火と煙で、夜昼の区別がつかないほどだった。

空襲の時は、一般の国民も防空壕に入ってきた。薄ぐらい壕の中で、空襲におびえながら赤ちゃんを背負って、三才位の子供の手をひいて、非常用にもった炒り豆を袋から一握り出して、「兵隊さん、

お願いします」と言われた。その時、軍人として責任の重大さが身にしみた。しかし負けた。あの時の親子はどうなったでしょうか。忘れることの出来ない思い出となつていきます。

書きたいことは沢山ありますが、書くことが商売でありませんので、思ったことの百分の一も書けません。同年兵や仲間がいれば思い出も沢山出ると思いますが、全く消息がつかめません。書くことは苦手ですが、話せば二日も三日もまだ続くと思っています。

地下壕目元学子会
感心文

一月二日（横浜市小中学校教員団体・在日韓国朝鮮人児童生徒の教育を考える会）

お忙しいところを本日は貴重なお話を本当にありがとうございました。

強制連行のことについてい

る。いろいろ自分なりに関心を持ち調べているのですが、このこともぜひ教材化してみたいと思います。私の場合は筑豊の強制連行について特にこだわっているのですが、本校の前には岸根公園が広がっていました、ここもかつては米軍基地でした。

地域の歴史を掘り起こし、それから子供達と共に戦争や平和について考えていきたいと思えます。お仕事と保存会の運動で本当にご多忙の毎日かと存じますが、お体に気をつけられて頑張ってくださいと存じます。ありがとうございます。

六角橋中学校教諭

一月三〇日（県立高校教職員組合「民族差別と人権」問題小委員会）

「1は見学の動機、2は感想、3は保存についての意見」

*1動員のため。2こんな場所にも戦争の跡が残っているとは思わなかった。3ドロ

を早くかたずけて保存してほしい。

*1こんなところに地下壕があつて何をしてたのか興味を持ったので。2電気を消したとき、ここで何が行われていたのか、思いを深くすることができた。3ぜひ保存したいと思いました。この中で授業ができたらいと思いました。

*1私自身障害者であり、差別問題で共通するものを感じたから。2こんなに立派とは思わなかった。改めて朝鮮人労働者の受けた苦難を思う。3賛成ですぜひ協力したい。

*1以前市ヶ谷の地下壕を見学し、海軍の方もいうことで。2市ヶ谷の時は陸上自衛隊の広報担当が、昔の陸軍のことを自慢していたのでとても不快であった。今日は地下壕のことを客観的に理解できたように思う。3ぜひ保存すべき。

*1歴史を民衆レベルでとらえる一つの手がかりとした

い。2事前の説明にもう少し時間をとって欲しかった。3年間レベルでの運動を盛り上げ、行政を動かすことが大切と思う。地権者の同意・協力を取り付ける必要があると思う。今後の保存を考える上で必要と思う。

*1教研ニュースを見て。2天井に残された罫子が印象に残っています。もっとPRして、この存在を宣伝して、気軽に入れるよう整備すべきだと思います。私の出身県にも、中国人が掘った穴があります。中国が掘った穴がネルのことは全く知りませんでした。いい勉強になりました。3後世に残すべくぜひお願いします。

*1神奈川県立の戦争の遺跡を体験したかった。2実際にみて、説明を聞き、イメージがつかめてよかった。3ぜひとも、保存し見学できるようにしたい。保存会に参加しますので宜しく。

*1今日、同僚に誘われて。2戦争中の形見が我々のまわりに残っていないことを実感しました。また父親が話す戦争体験を思い出しました。3特にありません。

*1ぜひ見たい。2わずか数カ月間に、とんでもないものをつくったものです。多くの朝鮮の人々も死んだ（殺された？）のでしょうか。やりきれなさを感じ、平和を訴える必要性を感じました。

*1日本の近現代史一特にアジア太平洋戦争について知りたいと思っています。2松代大本営や沖繩のガマと違い、コンクリート固めにされ、その立派さにびっくり。多くの人々を死なせた指令の数々をここから発したと思うと、慄然とする。3追って入会金をお送りします。頑張ってください。

*1どの程度の大きさか一度見てみたかった。2大きな部屋があるのかと思ったが、長く迷路のようになっていた。

のがわかった。3 ぜひとも歩きやすいようにして大勢の人に見学してもらいたい。

*1 有隣を読んで興味を持っていったのだが、ちょうど教研からの呼びかけがあったので、2 たたただ庄倒された。当時の様子を想像することは難しいが、現在の残されている状態そのものの圧迫で息苦しくなるほどだった。3 ぜひ整備し、保存していきたい。ただ松代のようにクリーンな観光地にしようという動きに対しては反対で、できる限り今のままで。

*1 実際に見ることににより当時の様子を知りたいと思ったから。2 本で読んで知っていたが、やはり実物でみると当時のなまなまさがよくわかった。まことにすごいというしかない感じですよ。3 ぜひ残して下さい。

*1 そのようなものがあるのは知らなかったし、見てみたいと思った。2 講師の方の努力に頭の下がる思い。この

ような地道な運動は大変だ。3 ぜひ保存すべきであろう。行政は動かないのか。

*1 教科学習に生かしたい。2 重要な戦史資料となるので、一般公開できるよう整備すべきです。3 ぜひ子孫に伝えるべきものだと思います。

*2 沖繩は前にみましたが、私が住んでいる井田の隣りにこんな地下壕があるとは驚きました。(父はシベリア抑留者です)。七〇年頃、家の前の大正橋のたもとから不発弾を取り出したのを見たことと、父に慰問袋を送ってくれた香

川の人に、私が挨拶に行ったことなどが、私の戦争体験でしたが、今度はもっと大きな体験をしたように思います。とにかく大きな地下壕だった。

*1 個人では見られないので参加しました。また、戦争の遺物を保存する必要があるのだ、ぜひとも一見する必要があるから。2 日本政府の保存に積極的でないことは、日本人として、アジア人とし

て恥ずかしいことである。直接には縁がないが民族として語り伝えて行く必要性を感じた。3 ぜひ必要である。

*2 迫力があつた。ありがとうございました。3 今のままの方が加工されなくてよいような気がする。ただ公道側の通路の再開とド口対策は必要ですが。

*1 神高教の案内を見て。沖繩戦の教材研究をしていくうちに司令部壕としての本壕に関心を持った。2 勉強になりました。3 会員になりました。

*1 地元、神奈川における在日朝鮮人に関係(強制連行)していること、及び戦争と平和の問題を考えるため。2 松代より小さいが身近にある壕を見て実感が迫ってきた。もっとじっくり時間をかけて見たい。他の壕も知りたい。

3 ぜひ早急に保存すべきと思うし、今後も調査の掘り起こしをすべきだと思います。
*1 沖繩戦に興味があり、

その関係で。2 歴史を身近に感じました。3 ぜひ保存すべきです。できることは協力したいと思います。

*1 戦争の跡を目にするのでできる貴重な機会だと思つたため。2 思っていたものより立派でびっくりしました。これだけのものをつくるためにどれだけの労力が必要だったかと思うと、強制連行の罪深さを感じます。3 先ず一般的には殆ど知られていないと思います。できるだけ多くの人にこのことを知らせる機会が必要なのではないかと思ひます。

*1 授業で強制連行について取り上げているので。身近にもその遺構があることを知りたかったから。2 今までの存在すら知らなかったのが巨大な地下壕に驚きました。壕から出てきたばかりで非常に複雑な思いです。家に帰っても一度考えてみます。3 ぜひ行政に何とかしてもらいたい。横浜市民でもその存

在を知らない人が多いのでもっと広く知ってもらえるようになったらいいと思います。私も授業で話してみます。

*1強制連行の跡を訪ねたと思ったので。2とても刺激されました。少なくとも卒業生を慶應大学に送り出しながら、何人がこの存在を知っているのでしょうか、恥ずかしく思います。

*1以前より寺田先生からお話を聞き、ぜひ行ってみたいと思っていました。2こんな身近なところにこれだけ大規模な海軍施設があるとは知らず、本当に驚きました。強制連行された朝鮮人の実態がもう少しわかれば、・・・と思います。3石灰がとけ出しているところ、土砂でうまっているところを目的の当たりにして、早急な保存の必要性を痛感しました。慶應の生徒さんに関心を持ってくれるとよいですね。

*1組合、民族差別と人権小委員会のメンバーとして。

2以前、松代大本営の地下壕に行ったことがあります、ともに戦争の時の我々日本人の愚かしさを実感しました。松代よりも、しっかりとコンクリートがうたれているのが少々驚きました。地盤の違いでしょうか。3このような戦争にまつわるものは今保存しなければならぬと強く思います。

*1在日朝鮮人強制連行問題とのからみで。2昨今のPKO法案と重なり、我々日本人が今まで何を、何を、何を沈黙のうちに表しているものではないだろうか。日本人が、今、忘れようとしているもの、そしてこれから突き進もうとしているもの、それに対するくさびではないだろうか。この地下壕は、3独・伊と異なり、目に見える形での「戦争」の跡を残そうとしない日本にあつて、こういう運動は非常に大切なことです。

*1地元であるのに見たこ

とがなかった。2戦中にこんな立派なコンクリートの壕を作っていた、しかも使っていたとは驚いた。今まで沖繩、松代、高尾とみてきたが、作りのかけのころもこうなっていたのかとわかった。

*2大変ありがとうございます。沖繩のガマに比べると、大変立派な地下壕で、びっくりしました。軍中央と地上戦のあった沖繩とは違いがあります。戦争の論理は、結局軍中心ということなのですね。

お願い

一九九二一年度反
△公費納入人について

新年度になりました。新年度の会費が、まだ未納の方は出来るだけ早くお納め下さいますよう、お願い申し上げます。

婦孺米俵改訂記

◆第四回総会が近づいてきました。この一年間に会員が飛躍的に増え、保存運動にも弾みが付いてきました。

◆今年こそ地下壕の整備保存の具体的な成果を生み出したいと思えます。

◆先日県知事の秘書の方に要請書を非公式ですが出してきました。

◆四月一四日には国会議員団が調査のため地下壕に入る予定です。

◆昨年から今年にかけて強制連行や従軍慰安婦の問題がクローズアップされ、歴史を正しく伝える必要性を痛感します。

◆地下壕は生きた歴史教育の場です。保存運動が成功するよう、今後ともよろしくご支援の程をお願い致します。

○映画初紹介

「戦争と青春」

一九九一年度の邦画界は、久びさに、黒沢明の「八月の狂詩曲」、今井正の「戦争と青春」、山田洋次の「息子」の三本の傑作が出た。

特に「戦争と青春」は、日本では初めてという市民の出資、支援に支えられて完成した映画である。この映画は、太平洋戦争下、米軍による日本本土焦土作戦によって、広島、長崎をのぞいて最も凄惨な被害を出した一九四五年の「炎の夜」を映画化したものである。

脚本は、早乙女勝元が二〇年来の構想を自ら脚本化し、これに大沢豊、吉田憲二、橋祐典の三監督が協力して二年がかりで完成したものである。

内容は、現代の一女子高生、花房ゆかり（工藤夕貴）が、夏休みに出された「戦争追体験」のレポートを書くために、親、家族、隣人、教師を通し

て、東京大空襲を検証していく過程で、一家が背負っていた驚くべき重み、衝撃的な事実を見聞きすることにより、やがて現在の人々が、何故か忘れつつある命がけの愛、青春を知り、日本の歴史の恥部を学んでいくというストーリーになっている。

監督は、「青い山脈」「ひめゆりの塔」「ここに泉あり」「純愛物語」その他多くの映画を手がけ、その何れもがヒューマニズムを基調としていた今井正で、メガホンを取ったのは九年ぶりとか。

七九才の監督が作ったものとは思えない迫力のある映画で、悲惨なシーンが随所に出て、思わず涙がこぼれてくるが、意外にからっとした感じで暗さが無い。終わりも明るく締めくくられている。

クライマックスの空襲シーンは、御殿場市電が原で、総費用二億円を投じて継まれたセットに火が放たれて撮影された。

この時、工藤の頭が半分近く炎に包まれ、危険を感じたスタッフが彼女を助けようと思わず飛び出したという。

工藤は「空襲場面の撮影中、助かると分かっているのに、泣きだしそうな位怖かったんです。髪の毛や眉毛の一部を焦がしました。実際に猛火に巻き込まれた昔の人は、どんなに辛かったんだろう。そう、ひしひしと感じました」と。この映画は工藤自身の戦争追体験であった。

工藤夕貴は、ゆかりとゆかりの叔母、つまり四五年前の咲子の二役として出演しているが、これは工藤の希望で決まったという。それほど、この映画にかける工藤の意気込みは凄かった。「たとえ、この映画を最期に女優をやめても悔いはない」とまで言い切っている。

映画は、焼け焦げた一本の電柱を中心に展開し、現代と四六年前の回想が交互に映し出される。回想はモノクロで

記録フィルムも使われ、映像効果を盛り上げている。リアルに満ちた空襲シーン、焼け跡の様子、蛍が飛び交う幻想的なシーンは印象的であった。映画は、また被害者の立場だけでなく、当時の朝鮮人や中国人に対する加害者の立場にもたって、きちんと描かれている。

最近の邦画にはない異色の作品であり、ヒューマニズムが深い、見る人に感動を呼び起こさずにはられない。

この映画は、文部省選定と優秀映画鑑賞会の推薦を受け、モントリオール国際映画祭にも出品された。日本アカデミー賞には、この映画が最優秀作品賞に、工藤夕貴が主演女優賞にノミネイトされた。

多くの人々に是非見て頂きたい映画である。

要 請 書

神奈川県知事

長洲 一二 殿

連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存をすすめる会

会長 永戸 多義雄

事務局長 寺田 貞治

年度末で多忙な時期であります、貴職におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃、県民の平和で豊かな暮らしを実現するため、ご活躍されていることに対して、心より敬意を表します。

さて、貴職におかれましては、旧海軍連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存をすすめる会（略称：日吉台地下壕保存の会）があり、保存運動を展開していることは、すでにご存知のことと思います。

神奈川県は、第二次大戦によって大きな被害を受けました。しかし地上にはもはや戦争の遺跡をとどめるものは殆どありません。

しかし、日吉の丘の地下には旧帝国海軍連合艦隊司令部の巨大な地下壕が眠っています。大戦末期約一年間、この日吉の司令部から様々な作戦司令が出されました。また、大本営軍令部の情報部も来ており、世界の軍事情報が集められていました。その他人事局・経理局、航空本部なども来ており、日吉は最も重要な軍事基地の一つでありました。このため、日吉地区は横浜大空襲の前にも大きな空襲が二度あり、大きな被害を受けました。

地下壕は海軍の設営隊と民間の労働者によって掘られ、この中には少なくとも七〇〇人以上の朝鮮人労働者がいて、最も危険な場所の掘削に従事したといわれています。

戦後は日吉に一九四九年まで進駐軍が駐留し、日吉の町は米軍の基地の町でありました。

このように、日吉台地下壕は、全国に数ある地下壕の中でも、当時最も重要なものであり、様々な戦争の実相が凝集しているところです。この地下壕もいま残さなければ、神奈川県に大戦当時の激動の昭和史を語る構造物は殆ど無くなってしまわうでしょう。

私たちは、こうした貴重な遺産を、歴史の生き証人として、また戦争と平和を考える原点として、現在および後世の人々のために残したいと思っております。つきましては、このような私たちの意図をお汲み取り下さいまして、

日吉台地下壕を史跡として永く保存し、多くの人々が見学できるよう
に整備して頂きたく要請いたします。

なお、保存をすすめる会の連絡先は左記の通りです。

横浜市港北区下田町三一一五―二七

日吉台地下壕保存の会事務局

寺田貞治方

電話〇四五―五六二―二二八二

一九九二年三月 日